

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

令和6年度前期日程試験解答用紙（数学）

〔注意事項〕

- ・ 監督者の指示があるまで解答用紙を開いてはいけません。
- ・ 全てのページの所定欄に受験番号、氏名を記入しなさい。

受験番号							氏名	
------	--	--	--	--	--	--	----	--

令和6年度前期日程試験解答用紙(数学)

第1問

- (1) $2^3 - 2^2 + 3 \times 2 - 10 = 0$ なので, $x = 2$ は方程式 $x^3 - x^2 + 3x - 10 = 0$ の解である。因数定理より, 整式 $x^3 - x^2 + 3x - 10$ は $x - 2$ で割り切れ,

$$x^3 - x^2 + 3x - 10 = (x - 2)(x^2 + x + 5) = 0$$

である。ここで, 2次方程式 $x^2 + x + 5 = 0$ について, 判別式

$$D = 1^2 - 4 \times 1 \times 5 < 0$$

であるから, 2次方程式 $x^2 + x + 5 = 0$ は実数解をもたない。したがって, 3次方程式 $x^3 - x^2 + 3x - 10 = 0$ の実数解は $x = 2$ のみである。

- (2) 軌跡は線分 AB の垂直二等分線 $x + 2y = 8$ である。この直線の x 切片は 8, y 切片は 4 であるので, 軌跡と x 軸および y 軸で囲まれた直角三角形の面積は 16 である。
- (3) 点 C を通り, 傾きが m の直線は $y = mx - 6m + 3$ である。この直線が円と共有点を持つので, $y = mx - 6m + 3 \cdots \textcircled{1}$ と $x^2 + y^2 = 9 \cdots \textcircled{2}$ の連立方程式を解くことにして, $\textcircled{1}$ を $\textcircled{2}$ に代入すると

$$x^2 + (mx - 6m$$

第1問 得点	
-----------	--

受験番号							氏名	
------	--	--	--	--	--	--	----	--

令和6年度前期日程試験解答用紙(数学)

第2問

- (1) 12個の点から異なる3個の点の組み合わせを考え三角形を作る。
 ${}_{12}C_3 = 220$ (通り)
- (2) 二等辺三角形の頂角をなす頂点を固定した場合に、その頂点に対する底辺の選び方は、正三角形になる場合を除き、4通り。二等辺三角形の頂角をなす頂点の選び方は12通り。
したがって二等辺三角形の組み合わせは全部で $4 \times 12 = 48$ (通り)
- (3) 直角三角形の斜辺として円の直径を選ぶことにする。その選び方は6通り。斜辺を固定した場合に作成可能な直角三角形は10通り。
したがって直角三角形の組み合わせは全部で $6 \times 10 = 60$ (通り)
- (4) 円周上で均等な間隔にある点を用いると正多角形ができる。つまり円周上の12点の内12の約数(ただし3以上の場合)の点を使って正多角形を作成することができる。
正十二角形が1通り、正六角形が2通り、正方形が3通り、正三角形が4通りの合計10通り。

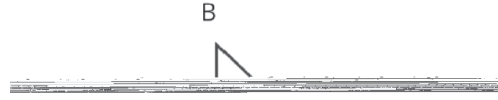
第2問 得点	
-----------	--

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

令和6年度前期日程試験解答用紙(数学)

第3問

(1)



$\angle BOA$ は鋭角なので, $0 < \cos \theta_1 < 1$ 。したがって,

$$d = b \cos \theta_1$$

(2)

$$\begin{aligned} \vec{OA} \cdot \vec{BC} &= \vec{OA} \cdot (\vec{OC} - \vec{OB}) \\ &= \vec{OA} \cdot \vec{OC} - \vec{OA} \cdot \vec{OB} \\ &= |\vec{OA}| \times |\vec{OC}| \times \cos \theta_2 - |\vec{OA}| \times |\vec{OB}| \times \cos \theta_1 \\ &= a c \cos \theta_2 - a b \cos \theta_1 = a(c \cos \theta_2 - b \cos \theta_1) \end{aligned}$$

(3) まず, ベクトル \vec{OA} と \vec{BC} が垂直なので, $\vec{OA} \cdot \vec{BC} = 0$ 。このことから, 前問(2)より,

$$a c \cos \theta_2 - a b \cos \theta_1 = 0$$

つまり,

$$a b \cos \theta_1 = a c \cos \theta_2$$

$a \neq 0$ より,

$$b \cos \theta_1 = c \cos \theta_2 \tag{A}$$

次に, 前問(1)より $d = b \cos \theta_1$ 。また, $\angle COA$ も鋭角なので, 前問(1)と同様に, $e = c \cos \theta_2$ 。

以上から, 等式(A)より,

$$d = b \cos \theta_1 = c \cos \theta_2 = e$$

第3問 得点	
-----------	--

受験番号							氏名	
------	--	--	--	--	--	--	----	--

令和6年度前期日程試験解答用紙(数学)

第4問

(1)

(ア)B

$x+1$ は $x > 0$ の範囲で正の値をとりかつ、 x が増えるにつれて増える。よってその逆数 $\frac{1}{x+1}$ は減少する。

(イ)C

$$x^2 - 2x + 5 = (x-1)^2 + 4$$

グラフの軸が $x=1$ である二次関数なので $0 < x < 1$ と $1 < x$ で減少と増加が切り替わる。よってどちらでもない。

(ウ)B

$0 < x$ の場合について考えるので $\sqrt{x}/x = 1/\sqrt{x}$ 。 \sqrt{x} は $x > 0$ のときに x の増加につれて増加する。また $\sqrt{x} > 0$ であるから $1/\sqrt{x}$ は減少する。

第4問 得点	
-----------	--